

国語 Vol.1

本書の構成と特色

本書の構成

本書は、全体が「習得編」「定着編」「演習編」「実戦編」の四つの章に分かれていて、基本・標準レベルの問題から、発展・実戦レベルの問題まで、段階的にステップを踏んで学習することができます。

一つの章は十単元で構成されています。十単元の内訳は、文章読解の学習として、「漢字・語句」が一単元、「文法」が一単元となっており、「詩・短歌・俳句」あるいは「古典」が二単元、文章読解以外の国語の学習として、「漢字・語句」が一単元、「文法」が一単元となっており、この一つの章のサイクルを、一冊の中で四度繰り返し返します。章を重ねることに、長い文章、難度の高い問題が織り交ぜられていくので、国語の学力を無理なく高いレベルまで引き上げることができます。

第一章 習得編

習得編では、文章のジャンルに沿った読み取り方（人物の心情の読み取り方など）を学習します。平易な文章を取り上げた〈例題〉を材料に、〈解法のポイント〉では「どう考えるか、どう読み取るか」が示されています。これを頭に入れてから〈確認問題〉を解くことで、文章読解が必要となる基本的な力を身に付けることができます。仕上げの〈練成問題〉では、そのジャンルの文章読解のスキルがしっかりと身に付いたかを確認します。

第二章 定着編

定着編では、さまざまな読解問題についての解法（要旨・主題の把握など）の定着を図ります。そのジャンルの文章読解に不可欠な解法を、〈例題〉と〈解法のポイント〉で学習し、〈確認問題〉で実践することによって、確実に身に付けることができます。仕上げの〈練成問題〉では、学習した解法が長い文章題でも活用できるように練習します。

第三章 演習編

演習編では、第二章までに学習した内容をさらに深め、さまざま

な文章題のパターンに対応できるように、問題演習を行います。文章題には、教科書レベルの標準的な文章を素材として取り上げています。特に、文学的文章と説明的文章の長文読解の単元では、ことばの意味などの知識で解ける問題はできるだけ抑え、考えて答えを出す問題を数多く出題しています。なお、第三章、第四章の「短歌・俳句」「古典」「漢字・語句」「文法」の単元では、〈例題〉↓〈解法のポイント〉↓〈確認問題〉で、国語知識を学習します。

第四章 実戦編

実戦編では、第三章までよりも難度の高い文章題を出題しています。第三章までに比べて、読解単元の素材となる文章もぐんと長くなるので、粘り強く文章を読み解く力を養うことができます。すべて〈練成問題〉で、難度が高く応用力を要求される設問も多いので、じっくり考えて判断するという、問題に取り組む姿勢も身に付けることができます。

漢字練習

四つの章の単元数に合わせて、四十回分の漢字の練習問題が巻末に付いています。

目次

国語 Vol.1

第一章 習得編

1	文学的文章 (1) (小説)	例題	確認問題	4
2	文学的文章 (2) (小説)	確認問題	8	
3	文学的文章 (3) (小説)	練習問題	12	
4	説明的文章 (1)	例題	確認問題	16
5	説明的文章 (2)	確認問題	20	
6	説明的文章 (3)	練習問題	24	
7	詩 (1)	例題	確認問題	28
8	詩 (2)	練習問題	32	
9	漢字・語句 (1) (漢字の成り立ち／部首／画数／筆順)	例題	確認問題	36
		練習問題		
10	文法 (1) (ことばの単位)	例題	確認問題	40
		練習問題		

第一章 定着編

11	文学的文章 (4) (隨筆)	例題	確認問題	44
12	文学的文章 (5) (隨筆)	確認問題	48	
13	文学的文章 (6) (隨筆)	練習問題	52	
14	説明的文章 (4)	例題	確認問題	56
15	説明的文章 (5)	確認問題	60	
16	説明的文章 (6)	練習問題	64	
17	詩 (3)	例題	確認問題	68
18	詩 (4)	練習問題	72	
19	漢字・語句 (2) (音読みと訓読み／熟語の組み立て)	例題	確認問題	76
		練習問題		
20	文法 (2) (文節相互の関係)	例題	確認問題	80
		練習問題		

第三章 演習編

21	文学的文章 (7) (隨筆)	練成問題	84
22	文学的文章 (8) (隨筆)	練成問題	88
23	文学的文章 (9) (隨筆)	練成問題	92
24	説明的文章 (7)	練成問題	98
25	説明的文章 (8)	練成問題	102
26	説明的文章 (9)	練成問題	108
27	短歌・俳句 (1)	例題 確認問題	114
28	短歌・俳句 (2)	練成問題	118
29	漢字・語句 (3) (類義語・對義語)	例題 確認問題 練成問題	122
30	文法 (3) (文の成分)	例題 確認問題 練成問題	124

第四章 実戦編

31	文学的文章 (10) (小説)	練成問題	128
32	文学的文章 (11) (小説)	練成問題	134
33	文学的文章 (12) (小説)	練成問題	140
34	説明的文章 (10)	練成問題	148
35	説明的文章 (11)	練成問題	154
36	説明的文章 (12)	練成問題	160
37	古典 (1)	例題 確認問題	166
38	古典 (2)	練成問題	170
39	漢字・語句 (4) (ことわざ・慣用句・四字熟語)	例題 確認問題 練成問題	174
40	文法 (4) (品詞)	例題 確認問題 練成問題	176
付録	漢字練習 1 ~ 40		180

第一章 習得編

1 文学的文章 (1) (小説)

例題 1

〈大石真「ひろったりんご」より〉

- (1) ①本文中の場面は、一日のうちどのくらいの出来事をえがいたものですか。また、②この場面にいる人物はだれですか。それぞれ書いて答えなさい。

- (2) ——線部「新聞の記事」の内容が書かれているのはどこからどこまでですか。本文中からその最初と最後の八字(句読点も字数に数えます)を書きぬいて答えなさい。

解法のポイント

- (1) **設定** 文学的文章の読解では、まず「いつ・どこで・だれが・何をした」という設定(どういう場面か)をつかむことが大切です。

① 本文の最後の一文に「ぼくは、新聞をママからもらって、ランドセルにいれると、学校に向かって歩きだした」とあることから、朝、学校に行く前の出来事であることがわかります。

② 本文の場面に「いる」のは二人です。「おばあさん(わたし)」は新聞記事に登場するだけなので、ここに「いる」とは言えません。

(解答例) ①朝 ②ママ・ぼく(タクちゃん)

- (2) **内容理解** 設定をつかんだら、次はもう少し詳しく内容を読み取りましょう。「新聞の記事」は「おばあさん」の投書ですから、「おばあさん」の書いた部分を探せばよいでしょう。

(解答) 先日、マーケット〜かみしめました。

(2) —線②「言ってくればよかったのに……」の「……」には、「わたし」のどのような気持ちがこめられていますか。書いて答えなさい。

(3) 本文中の場面からは、三谷チヨさんがどのような人物であることがわかりますか。書いて答えなさい。

解法のポイント

(1) **内容理解** 最後の会話部分で、三谷チヨさんが「梅こけし」をつくれなかった理由を言っています。この部分のことはを用いて、答えを書きましよう。

(解答例) 何度やってみても、「わたし」が見てくれたこけしと同じだと納得できるものができなかったから。

(2) **心情** 「わたし」は、あこがれの「梅こけし」の作者に会うため、はるばる遠くからやって来たのに、「梅こけし」をつくってもらえなかったので、「少なからずおもしろくなかった」と言っています。

(解答例) 失望した(腹立たしい・不満な・うらめしい) 気持ち。

(3) **人物像** 言葉や行動から、登場人物の性格を読み取ります。たたみに手をつけて、ていねいにおわびを言っているところや、そのおわびの内容から、三谷チヨさんがどのような人物であるかを考えます。

(解答例) おだやかでまじめで、自分の仕事には厳しい人。

〈生源寺美子「雪ぼっこ物語」より〉

(注) 梅こげす＝梅こけし。

きぼこ＝こけし。

(1) —線①「とうとう、できなかつたんです」とありますが、三谷チヨさんが「わたし」から頼まれていた「梅こけし」をつくれなかった理由を書いて答えなさい。

確認問題

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。



〈椎名誠「アメンボ号の冒険」より〉

□(1) **心情** — 線①「オボが全身で緊張している」とありますが、その理由として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 大勢の釣り人たちの目の前で、みじめな姿をさらすことはできないと思っていたから。

イ 釣り人たちが自分たちに何を伝えようとしているのかわからず、気があせっていたから。

ウ 越えるのが不可能にさえ思える滝の様子を目にして、かえって闘志をかき立てられていたから。

エ 激しく瀬音を立てる滝を前にして、はたして無事に越えられるのだろうかと不安を覚えていたから。

□(2) **設定** — 線②「そのような状況」が指している状況を、「アメンボ号がく」という状況」という形で、二十五字以内（句読点も字数に数えます）で書いて答えなさい。

□(3) **人物像** 本文中で、気をきかせて素早い行動がとれる子としてえがかれている登場人物を、次から一人選び、記号で答えなさい。

- ア「ぼく」
- イ 中島君
- ウ オボ
- エ フーちゃん

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。



〈氷室冴子「いもつと物語」より〉

- (1) **心情** 本文中の「**1**」の部分からは、チヅルのどのような気持ちを読み取れますか。「**2**」の「**3**」という形で、二十字以内（句読点も字数に数えます）で書いて答えなさい。

- (2) **心情** — 線①「いい卵だぞ。手、だしてみな。チチの卵があったぞ」から読み取れるおじいちゃんおじいちゃんの気持ちとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 自分の家だとれた卵のすばらしさを自慢じましたい気持ち。
- イ 卵がこわれないですんだので、ほっとしている気持ち。
- ウ かわいがっている孫のチヅルを喜ばせたいと思う気持ち。
- エ まだ小さなチヅルには、一番小さい卵で十分だと思う気持ち。

- (3) **心情** — 線②「チヅルは、生きているヒヨコをもつように、そつと両手をすぼめて卵の重みをたのしんだ」とありますが、チヅルはなぜこのようなことをしたのですか。次から最も適切と考えられる理由を選び、記号で答えなさい。

- ア 卵が今にもかえりそうに思えたので、このまま温めてみたいと思ったから。
- イ 卵に命のぬくもりを感じ、その重みを手にしていることに感動を覚えたいから。
- ウ 町場の卵とちがって、川原の家の卵のあまりの小ささと軽さにおどろきを覚えたから。
- エ 卵がすぐにでもこわれそうな感じがするので、注意しようと緊張きんちやうしたから。